

地域おこし協力隊活動記

第9話 食の6次産業化プロデューサー

小野町地域おこし協力隊 宍戸 開^{はるき}

お久しぶりです！突然ですが、私は今年「食の6次産業化プロデューサー」という資格を取得しました。

皆さんは「6次産業化」という言葉を知っていますか？

詳しい定義はネットで調べてもらおうと分かりませんが、ざっくり言うと「地域資源を活用した新たな付加価値を生み出す取り組み」で「農山漁村の所得の向上や雇用の確保を目指す」ことです。

8年前に6次産業化・地産地消法が制定され、2018年には6次化関連の市場規模は約8兆円になっています。

IT化の進展にともなって、さまざまな立ち位置の人たちが、これまでになかった「もの」や「サービス」の流れを作り出すことができるようになり、農家が直接、自分で作った農産物を直売所やインターネットで販売したり、加工して付加価値を付けたものを独自の販売ルートで販売したり、逆に、レストランや小売など消費者に近い立ち位置の人が生産者と組んで、あるいは、自らも農業を手掛けて農産物の商品化に携わるなど、新しい流れができています。

またこれまで使われていなかった食材を流通に乗せることでフードロスが減らしたり、食をテーマとした観光につなげたりするなど、食という地域の資源を生かして地域づくりを行うことで、これまで繋がり少なかったさまざまな分野との連携が進んで



先日、昔の同僚がはるばる小野町に遊びに来てくれました

います。

このような背景の中、商品化の企画から加工、販売やマーケティングなど、プロセスを主体的に企画したり、統括的にアドバイスできる人材が求められるようになっていきます。

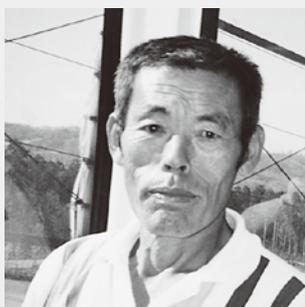
そこで、6次産業化や食農を基盤とした新たなビジネス創出をサポートするのが「食の6次産業化プロデューサー」です。

地域で何か始めたい方などをバックアップしたいと考えています。食や農ビジネスなどに関する相談などあれば、お気軽にご連絡ください。

☎ E-mail:oh.no.genki3981@gmail.com

ふるさと小野町会

ふれあい通信



先崎 助直

●吉野辺出身

●埼玉支部

小野町と戸田市のつながり

私は戸田市在住で、ある時「川の会」に出会いました。そこで知り合った仲間たちと戸田市内を流れる川をきれいにしようと、川に捨てられたガレキやゴミ、ヘドロなどを清掃する運動を始めまし

た。そのうち戸田市議会議員の皆さんにも知られるようになり、前市長にも認められるようになりました。東日本大震災時は私に「おい、小野町は大丈夫か」と真っ先に声を掛けてくださり、それ以来交流も深まりました。斉藤直子議員においては、わざわざ小野町へ出向いて議員同士の勉強会を開催いただくなど、本当に感謝しています。

ふるさと小野町会の総会は、毎年戸田市文化会館をお借りして行われ、そのほか春はお花見会、夏には花火大会と会員の皆さんも喜んで訪れています。秋になると恒例の戸田市商工祭に小野町から大量の新鮮野菜をご持参いただき、大物産展での交流を図っています。平成28年には小野町と戸田市が災害協定を結びました。

私は生まれ育った小野町をいつでも気にかけて応援しています。

笑顔とがんばりのまちを誇りに思っています。